

自転車のヘルメットの大切さ

桜町小・3 友滝 花帆

わたしたちにとっての自転車のヘルメットの大切さについてせつめいします。

まずなぜこのテーマにしたのかというと、ストライダーでいとこと遊んでいた時に転んで頭をぶつけてしまったけれど、ヘルメットをしていて助かったからです。また、ニュースで自転車の事故が多いと知ったからです。調べて考えた中でつたえたいことは六つあります。

一つ目は、ヘルメットをしていないとどうなるかです。大体のヘルメットをしていない事故では、死ぼうしてしまったり、重体になったりすることが多いとニュースで知りました。同じくニュースで自転車と自転車でぶつかった時、強く頭をぶつけているとつたえています。だからヘルメットは着けた方がいいということです。

二つ目は、ヘルメットを着けていなかった事故についてです。全ての事こで言えることは、頭を強くぶつけているということです。そしてなくなってしまうている人の内の六十四パーセントが強く頭を打ってなくなっています。つまり、ヘルメットを着けていれば助かった命もあるということなので、ヘルメットを着けた方がいいと

思います。

三つ目は、ヘルメットを着けている時と着けていなかった時のちがいにについてです。ヘルメットを着けていなかった時は着けていた時のやく四倍も頭へのしようげきが強いということを調べて知りました。四倍というのはとても大きなちがいであることが分かります。

四つ目は、なくならなかったとしても、事故をしたらどうなるのかについてです。事故をした後、病院に行った時に手や足のまひ、言葉のしようがいのがのこるかのをせいがあるということを知り、ヘルメットを着けなければいけないと思いました。

五つ目は「どりよくぎむ」についてです。四月からどりよくぎむが国からせんげんされて、ヘルメットを着ける人がふえたのか、さんぽを試してみてもかさつしました。自転車に乗っている人は見かけるけれど、ヘルメットではなく、ぼうしをかぶっている人が多かつたように思います。または、何も着けていない人が多かつたです。どりよくぎむがあつても、ヘルメットをかぶらない人が多いと思ひました。

六つ目は、これからわたしはどうかです。自転車に乗れるように



練習中だけれど、自転車に乗れるようになった時、そしてまわりの人たちに何ができるかを考えました。自転車に乗る人が転んだり、事故じこをしたりした時にけがをする人をへらしていきたいと思つていきます。ニュースで見たことや調べたこと、自分自身の考えを行動にうつし、今回書いたことが一つでもだれかの役に立てたら、わたしはうれしいです。そのために、他の人にもヘルメットの大切さをつたえていきたいと思います。さいごに、本当にヘルメットの大切さと役目を知ることができてよかったと思います。

(参考資料)

警視庁 HP

<https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp>